

令和5年度 第1回 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会（書面開催）結果

令和5年度第1回十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会については、書面にて開催しました。

■ 開催日 令和5年9月13日（水）

■ 出席委員 12名全員

■ 会議次第

1 議事

(1) 座長の選任について（資料1・2）

(2) 共生ビジョンの取り組みに対する意見・提案について（資料3・4・5）

（参考資料） 第3期十勝定住自立圏共生ビジョン概要版（参考資料1）

共生ビジョン年度改訂に向けたスケジュール（参考資料2）

■ 開催結果

1 議事

(1) 座長の選任について

委員の互選により、学識経験者である帯広畜産大学の三宅委員を座長に選任しました。

(2) 共生ビジョンの取り組みに対する意見・提案について

共生ビジョンの年度改訂（案）をご確認いただき、協定に基づき推進する具体的取組に対して、又は、地域の課題解決や十勝圏のさらなる発展に向けて、単独の市町村では対応困難な課題や、連携により効果が上がると考えられる取り組みなどについて、各委員からいただいたご意見の概要は別紙のとおりです。

2 報告

(1) 副座長の選任について

十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第5条第2項の規定により、座長が指名することとなり、三宅座長の指名により寺嶋委員を副座長に選任しました。

No.	関連協定項目等	意見の概要
1	<p>■1-1-(1) 救急医療体制等の確保</p> <p>■1-1-(2) 地域医療体制の充実</p>	<p>R3年度の懇親会では十勝全域を対象とする2次救急医療体制の新たな枠組み構築に向けた協議の必要性が述べられており、継続した審議が必要と考える。</p> <p>さらに、十勝の3次医療においては防ぎうる外傷死を少なくする視点で広範な十勝圏域へのドクターヘリの導入は近い将来必須と考えられ、今後の課題である。近い将来に必ずおこるとされる千島海溝の巨大地震の際に、釧路空港は使用不可となる可能性が高く、防災の観点からもドクターヘリの導入は帯広空港をハブ空港とする大規模搬送に係る事案である。</p>
2	<p>■1-2-(3) 高齢者の生活支援体制の構築</p>	<p>介護人材不足に対して「介護士定着支援研修会」や「介護リーダーマネジメント研修」に取り組まれているが、依然、介護人材不足の現状である。養成校からの人材には限りがあるため、他業種からの介護士を目指す人への支援が出来ればと思う。潜在介護士が多くいると思う。その方へ向けて、介護現場への復帰のためのセミナーや、「ベースアップ等支援加算」にて、給与も改善されていることを改めて伝える機会があると、再度介護職として働こうと思ってくれるのではないかと考える。</p>
3	<p>■1-3 教育分野</p>	<p>地球温暖化による記録的な暑さは今後も継続すると思う。学業に集中するためにも、学校へのエアコン設置を望む。</p>
4	<p>■1-4-(6) 農業振興と担い手の育成</p>	<p>食料・農業・農村基本法見直しの議論が進められる中、食料自給率38%の現状から、飼肥料などの農業資材が高騰する中で、自給率の向上より、維持する事も困難な状況にある。国民の同意をより求めて生産コスト上昇に対して適正な価格形成を構築しなければ、持続的農業の継承が出来ず、担い手の減少が続く。十勝は食料基地ではあるが、消費地への物流は、2024問題が多い。「共生ビジョン」には、人の移動のための、道路や鉄道の整備について記載はあるが、物流対策について、将来の展望が必要である。</p>
5	<p>■1-4-(6) 農業振興と担い手の育成</p>	<p>農業の繁忙期に必要な短期・臨時の雇用者の確保も難しくなっている。短期雇用を希望する管内の学生等に対する情報提供について、農業関係機関と高等教育機関の間をつなぐような支援を検討してはどうか。</p> <p>また、リカレント教育が注目される中で、教育を提供する側と潜在的な参加希望者の間をつなぐような情報提供についても、支援を検討してはどうか。</p>
6	<p>■1-4-(2) フードバレーとかち及びバイオマスの利活用の促進</p>	<p>家畜の飼育頭数が増えると糞尿問題が出てくる。環境問題の観点から、各市町村で処理施設の増設や新設を推進し、発電等の循環型事業への活用を検討することは費用の面で難しいのか。</p>

No.	関連協定項目等	意見の概要
7	<p>■2-1-(1) 地域公共交通の 維持確保と利用 促進</p>	<p>今後の人口減少の影響を鑑みて、街づくり単独では機能しなくなり、交通も単独では機能しなくなる。そのため、①国土交通省での新たな政策「街づくり政策と交通政策の融合」、②その中で核となる「コンパクト+ネットワーク」の推進、③市民から見た利便性を図るため、他社との競合路線ではダイヤ調整等の運輸連合の推進、また自社内での複数系統の合流路線ではダイヤ調整の推進を共生ビジョンに盛り込む。</p>
8	<p>■2-1-(1) 地域公共交通の 維持確保と利用 促進</p>	<p>ノーカーデーの推進のほかにも、マイカーから路線バスへの乗り換えを促進し、必ずしも実態を捉えているとは言えない「公共交通が不便」との誤解を解消するためにも、全国で複数の市で実施され、全国的に有望視が進み始めている「路線バス無料デー」を検証して取り組むことを共生ビジョンに盛り込む。</p>

以上